

第17回雪のラブレター募集(入賞作品)

【俳句の部】

賞	最優秀賞
作品	ふいの雪大阪弁を呼び覚ます
作者	椿さん
住所	埼玉県
講評	生まれ育った大阪を離れて何年になるだろう。そんな時、思わぬ雪が舞い降りてきた。「あ、雪やん」、思わずつかうことのなかったふるさとの言葉が口をついて出た。長く仕舞っていたふるさとの言葉…。雪によって「呼び覚ま」されたふるさと大阪…。やはり詩は瞬間に宿るのかもしれない。

賞	優秀賞
作品	同じ雪見ている沖へ向かう船
作者	木下江美
住所	茨城県
講評	また彼は大海原へ出る。ここから何度見送っただろう。折りしも大粒の雪、沖へ消えてゆく船の中で、きっと彼も降りてくる雪を見上げているに違いない。いつものように大好きな笑顔で戻りますように…。高なる想いを抑えたことがより深く広い句になっている。
作品	文学も科学も忘れ雪合戦
作者	ぼむぼむ
住所	大阪府
講評	高校を卒業して久しぶりに友だちと集った。文系に進んだ者、理系を学ぶ者、そしてもう社会人として働く者。いま、真白い雪野原を前に誰からともなく雪合戦がはじまった。またあの頃に戻ったようだ。今までに無い新鮮な把握が連想を逞しくしてくれます。

第17回雪のラブレター募集(入賞作品)

【俳句の部】

賞	佳作
作品	君を待つ渴きに雪のひと掬い
作者	五島 洸
住所	東京都
講評	初デートか、それとも今日こそは告る決意か…。口の中が渴いてしょうがない。雪をひと口またひと口。雪国ならば誰も同じような経験があるだろう。想いを直接ことばにせず、具体的に見える捉え方が何より成功している。
作品	新雪に飛び込むふたりだけの空
作者	福永 敬子
住所	北海道
講評	広い雪原に出た。彼(彼女)の背中を追う。そして呼吸を合わせて背中から倒れあつた。真青な空、そして少しずつ呼吸が整ってくる。まさに「雪のラブレター 俳句」の正統と呼ぶべき秀作である。
作品	図書室に戻る初雪告げたくて
作者	山下 奈美
住所	静岡県
講評	静まり返った図書室。「じゃあ、お先ね」と囁いて長い廊下をゆくと、外は美しい初雪。きっと気付いてないかもしれない。教えてあげよう。これからふたりの冬が始まる。シチュエーションも胸の内も鮮やかに見えてくる。

第17回雪のラブレター募集(入賞作品)

【俳句の部】

賞	入選
作品	終電が君を連れ去る雪の駅
作者	雪の又三郎
住所	神奈川県
作品	待ち侘びし文粉雪をのせて来る
作者	大久保志遼
住所	愛知県
作品	「寒いわね」「冬だで」と言い手を握る
作者	椰子の実
住所	東京都
作品	シェルブールの雨傘の雪まだ解けず
作者	しんちゃん
住所	東京都
作品	母の恋物語聞く雪の夜
作者	難波 安津子
住所	岡山県
作品	雪うさぎ並べて君の夢を見る
作者	あすか
住所	埼玉県

選者:大類つとむ氏(山形県現代俳句協会会長、俳誌「陸」「街」同人)

応募作品数 : 3,869作品